

ASEAN グローバルプログラム に参加して

大木 峻斗
Ryoto OKI
電子情報学科 2年

1. はじめに

私が今回参加したプログラムの全体の行程は、下記の表に示す内容であった。この研修のハノイ工業大学の学生との合同プログラムは二日間にかけて行われ、今回の研修のメインであった。活動内容は、栄光堂の商品が今よりベトナムで売れるにはどうしたらよいかを提案することであった。1日目、2日目とアンケート調査と、会議を行い、2日目には、グループで完成させた企画を発表した。南洋理工大学訪問では、広大な敷地を見学し、実際の授業を受けた。Google 訪問では、そこで働く日本人女性の方の講演を聞いた。ビジネスパーソンとの交流会では、海外で働く4人の方と質問会、話し合いの場を頂いた。シンガポールで企業支援を行っている加藤氏の講演はプログラムの締めとなった。

表 研修の行程

8月27日(火)	大阪からハノイのホテルへ移動
8月28日(水)	栄光堂訪問、ホテルで会議
8月29日(木)	ハノイ工業大学合同プログラム 1
8月30日(金)	ハノイ工業大学合同プログラム 2
8月31日(土)	観光、ベトナム人学生と観光
9月1日(日)	ハノイからシンガポールのホテルへ移動
9月2日(月)	南洋理工大学訪問
9月3日(火)	Google 訪問、ビジネスパーソンとの交流会、加藤氏の講演
9月4日(水)	自由時間、移動(帰国)

2. 参加目的

私がこのプログラムに参加した理由は2つあった。1つ目は、一度も海外に行ったことがなかった

ので、海外の世界を見てみたかったからであった。2つ目は、海外の学生と交流できると聞き、日本人以外の方と関わることでできるいい機会だと考えたためであった。私は今まで日本から出ることができなかった。そのため日本という国を内面からしか見ることができなかった。しかし、グローバル化や、企業の海外進出などという言葉が近年よく耳にする中で、海外に行くことで世界の実状を国内からではなく、海外からの客観的な目線で見たいと思った。その客観的な目線というものを得るためには、行くだけでなく、現地の人との関わりが必要だと考えたため、この2点を目的として本プログラムに取り組んだ。

3. 研修内容

私はここで、はじめに述べた行程の中で、特に印象に残っている、ハノイ工業大学での合同プログラムについて、以下に詳しく述べる。このプログラムは、日本の菓子メーカーである鈴木栄光堂の「塩レモンキャンディ」をベトナムでより多く販売するためのアイデアをハノイ工業大学の学生と、2日間にわたり一緒に考え提案してまとめるものであった(次ページの図)。自分たちが考えた販売企画の仮説が、ベトナムで通用するかを確認するために、ハノイ工業大学の学生に対してアンケート調査を行い、それを集計分析し、仮説の有効性を検証して、提案内容のブラッシュアップをグループで考え、プレゼンテーションの準備を行った。このプログラムは、合計3回の発表の場が設けられていた。まず、1日目の途中経過の報告、2日目に、ハノイ工業大学で行う英語での発表、2日目の最後に企業の方の前での最終報告である。日本人だけの発表は、日本語で行えばよいので難しいことではなかったものの、ハノイ工業大学での英語の発表はかなり難しいものであった。私たちの考えを英語で、ハノイ工業大学の学生に伝えようとするもなかなか伝わらず、ジェスチャーを兼ねたり、単語を紙に書いて伝えたりと試行錯誤してようやく伝わるといった具合であっ



図 ハノイ工業大学での PBL 活動を共に行った 6 班のメンバー

た。この時に私は自分の英語力の低さに絶望したのであった。今まで自分はある程度は英語ができると考えていた自分が情けなくなり、まだまだ英語力が足りないことを、身をもって痛感した。しかし、この体験を今この年でできたことは、とてもありがたいことであり今後の生活にいい影響を与えるものとなった。

もうひとつ私が本研修の中で、印象に残っているプログラムがある。それが、加藤氏の講演である。この講演は、自分の今までの考え方を大きく変えるほどの影響を与えた。この方の講演は、とても響く話し方、熱量であり、聞いているうちに自然と引き込まれていった。今まで自分は自ら進んでアクションを起こしてこなかった。その理由は、まわりの目をかなり気にする性格であり、自分の意見、考えを発することが苦手だったからである。日本社会の特徴として、まわりと違うことをすると、叩いたり、軽蔑したりする、同調意識というものがあると講演で聞き、自分の周りにもそういう人がいたなと思い

つつ、自分自身もそういった環境の中でアクションを起こしてこなかったことを後悔した。また、アクションを起こすのは、若いうちが大切であるというお話もあり、今の大学生時期にアクションを起こすことが大事だということも学んだ。この直前にあった、ビジネスパーソンとの交流会で聞いたことと合わせて考えると、今この時期に小さなことからでもいいからアクションを起こし、スキルや知識、これから生きていく上で使うことのできる強みを身につけておくことが自身のキャリアを作り上げていく上で大事だということも学んだ。

4. おわりに

私はこのプログラムに参加するまで、物事を日本の中で得た価値観でしか判断せず、多様な考えのもとで物事を考えたり、取り組んだりすることができなかった。しかしながら、今回のプログラムを通して、海外の学生や社会人の方々と交流したり、海外で実際に働く日本人の方のお話を聞いたりしたことで、私自身の物事の考え方や、取り組み方が大きく変化したことを体感した。また、英語力の不足など、自分自身の課題も確認することができ、これからの目標が見つかったことで今後の成長につながると考えている。とはいうものの、アクションを起こさなければ意味がないので、講演を通して学んだアクションの仕方、ビジネスパーソンの方に教えていただいたように自分の工具箱に知識やスキルなどの道具を入れておくことなど、帰国した今からできることを徐々に実行していこうと思っている。今回のプログラムはとても有意義な時間を過ごせたと感じ、心の底から参加してよかったと感じている。